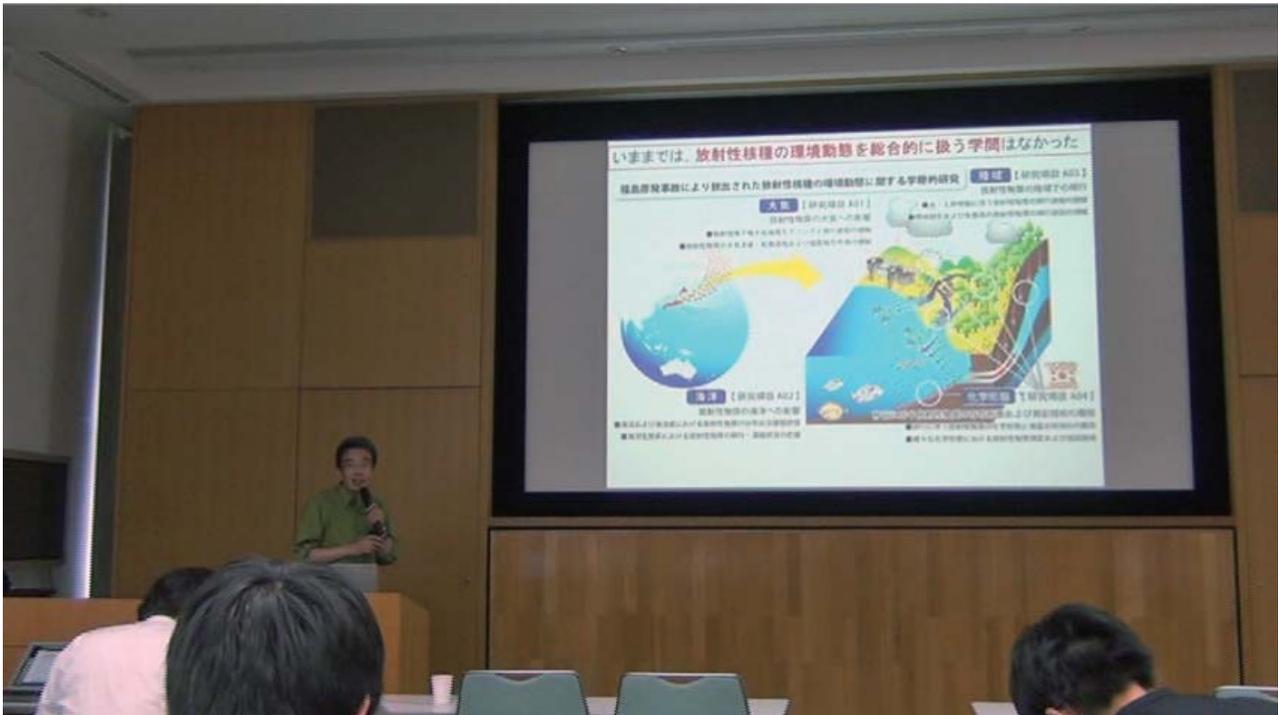




ISET-R全体会議を開催しました JAMSTEC横浜研究所三好講堂 on 2014/5/1



2014年5月1日、JAMSTEC 横浜研究所(三好講堂)において、ISET-R 全体会議を開催しました。

当日は、ISET-R に参画する延べ81名の研究者・学生が参加しました。恩田総括班代表(筑波大学)より、挨拶並びに全体会議の趣旨説明の後、各計画研究班の代表者による研究概要・進捗状況についての報告が行われました。

事業開始から3年目を迎えた今年、これまでの進捗状況や積み重ねてきた研究成果を総括し、また、今後の事業の展開について話し合いました。特に、本事業の要諦である、大気・陸域・海洋の学術領域間の相互連携について、研究計画の立案を行うなど有意義な意見交換を行うことができました。全体会議の後、有志によるポスターセッションや計画研究班の班会議が行われ、個別の進捗状況の確認等を行いました。

【研究概要・進捗状況報告】

各計画研究の課題名と発表者は以下の通りです。

■ A01-1班

放射性降下物大気輸送モデリングと移行過程の理解

中島 映至（東京大学・大気海洋研究所）

鶴田 治雄（東京大学・大気海洋研究所）

■ A01-2班

放射性物質の大気沈着・拡散過程および陸面相互作用の理解

五十嵐 康人（気象研究所・環境・応用気象研究部）

■ A02-3班

海洋および海洋底における放射性物質の分布状況要因把握

山田 正俊（弘前大学・被ばく医療総合研究所）

■ A02-4班

海洋生態系における放射性物質の移行・濃縮状況の把握

神田 穰太（東京海洋大学・海洋科学技術研究科）

■ A03-5班

水・土砂移動に伴う放射性物質の移行過程の理解

恩田 裕一（筑波大学・アイソトープ環境動態研究センター）

■ A03-6班

陸域生態系における放射性物質の循環過程の理解

竹中 千里（名古屋大学・大学院生命農学研究科）

■ A04-7班

移行に伴う放射性物質の化学形態と微量分析技術の開発

山本 政儀（金沢大学・環日本海域環境研究センター）

高橋 嘉夫（東京大学・大学院理学研究科）

■ A04-8班

様々な化学形態における放射性物質測定および技術開発

篠原 厚（大阪大学・大学院理学研究科）



写真提供：
篠原先生（A04-8班）



【若手育成プログラム表彰式】

また、会議の中で若手育成プログラム参加者の表彰式が行われました。

本事業では、将来の「放射能環境動態」研究を担う研究者の育成を最重要課題の一つと捉え、学術領域の壁を越え、放射能環境動態研究をリードする研究者の育成に努めています。具体的に「放射性核種の環境動態を学ぶ総合研修プログラム」を企画し、若手研究者の参加を募っています。これは自らの専門分野と異なる分野において企画された、1泊2日以上での調査に参加することで、様々な分野の環境動態調査の研修を受ける企画で、これまでに延べ54名が参加しました。このうち、自らの所属分野以外の研修に全て参加された、張子見さん(大阪大学)・佐藤志彦さん(筑波大学)の2名に認定証の授与を行いました。

今回、認定証を授与された2名からコメントを頂きました。

今後の彼らの活躍を大いに期待したいと思います！

【受賞者のコメント】



大阪大学・張子見さん

普通の大学院生ではできない様々な経験を、各班の若手育成策でさせていただいた上に、このような賞をいただくことができ、光栄で

す。ISET-Rが中盤に差し掛かったところで自分は博士課程に進学しました。これからは今までの研究成果を論文のような形に残る結果として残すことを当分の目標にします。また、この新学術が一段落したあとでも、ここで得られた経験と人脈を活かし、科学や社会のために役立てることができたら幸いです。



筑波大学・佐藤志彦さん

若手育成政策では普段関与しない分野に触れることができました。そして領域の異なる先生方と出会ったことで、考え方の幅が広がりました。今後とも

このような育成プログラムが継続されることを強く希望いたします。